

八代港 港湾計画 一部変更

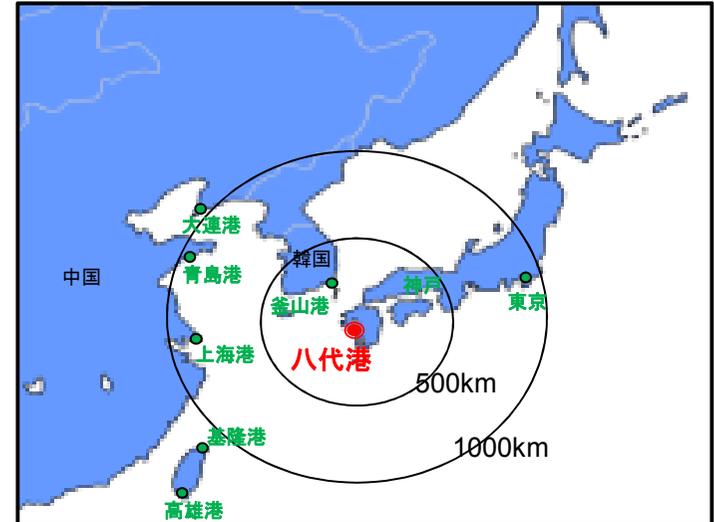
前回改訂:平成17年 11月(目標年次:平成30年代前半)

平成29年3月10日
交通政策審議会
第66回港湾分科会
資料1-3

港湾管理者:熊本県



八代港 広域位置図



計画変更箇所と変更のポイント

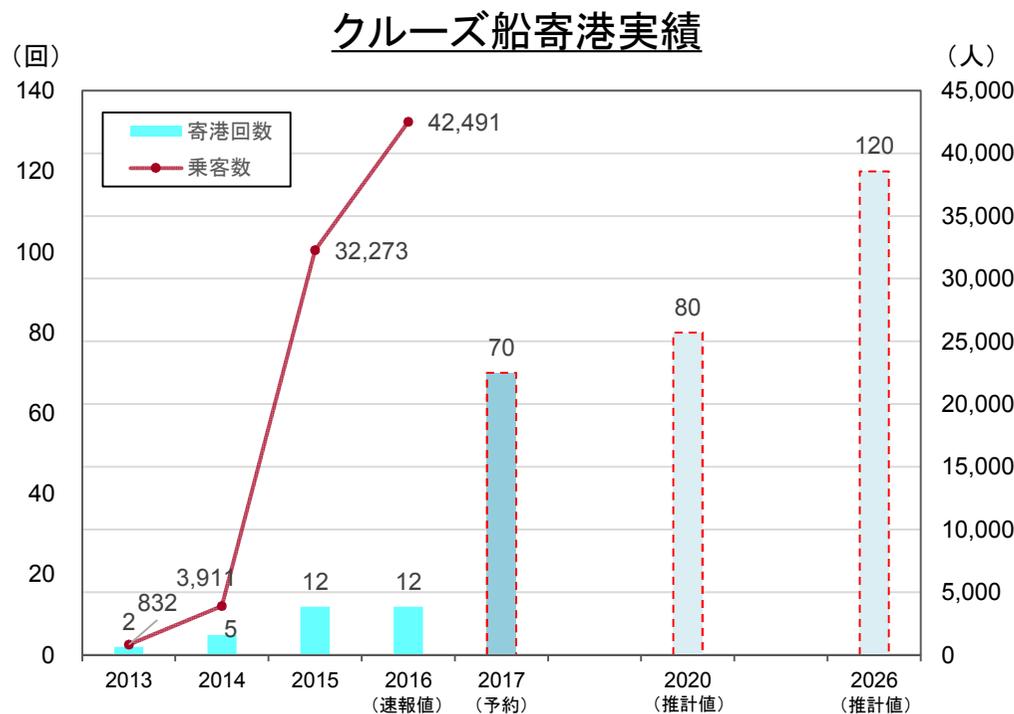
【変更のポイント】

- クルーズ船の寄港回数の増加及び大型化に対応するため、新たに旅客船埠頭計画等を計画する。
- 大規模災害時の防災拠点機能の早期確保のため、大規模地震対策施設の計画を変更する。



クルーズ船受入の現状

- 現在、クルーズ船は、バース調整を行いながら、貨物岸壁(水深12m、14m)を利用している。
- 平成27年度に貨物岸壁に大型クルーズ船対応の付帯設備を整備して以降、クルーズ船の寄港が増加しており、平成29年には、寄港回数70回が見込まれている。
- 平成29年1月に、『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾に選定された。



※2020年及び2026年の寄港隻数は船社へのヒアリングをもとに港湾局作成

大型クルーズ船(16万トン級)に対応したふ頭



通常時(貨物利用)

クルーズ船寄港時



【熊本地震後の地域振興・観光支援にも寄与】

熊本地震時の支援状況及び耐震強化岸壁の整備状況

- 熊本地震において、八代港は、岸壁の早期の利用再開が可能であったため、海上輸送及び給水・入浴等の支援拠点となった。
- 熊本県の港湾には耐震強化岸壁が整備されておらず、早期の整備が望まれている。

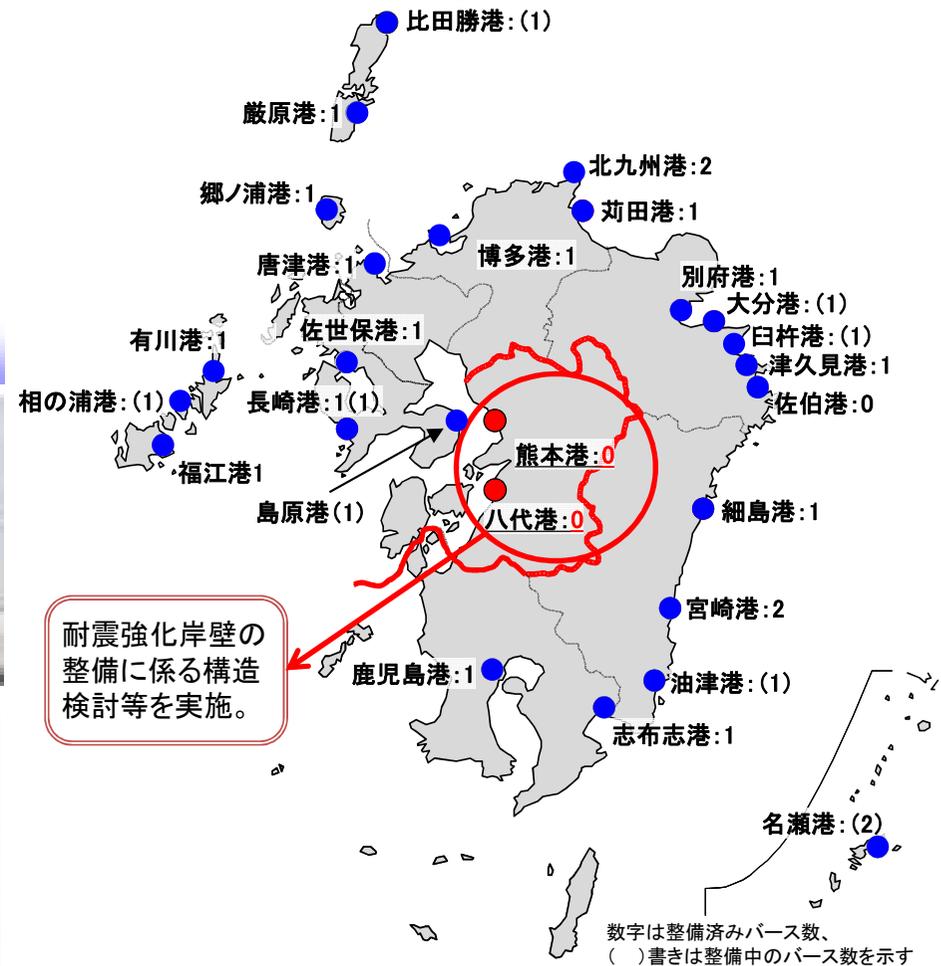
八代港の被害状況



港湾における支援状況



九州における耐震強化岸壁の整備状況



クルーズ船及び緊急物資の受入環境の整備

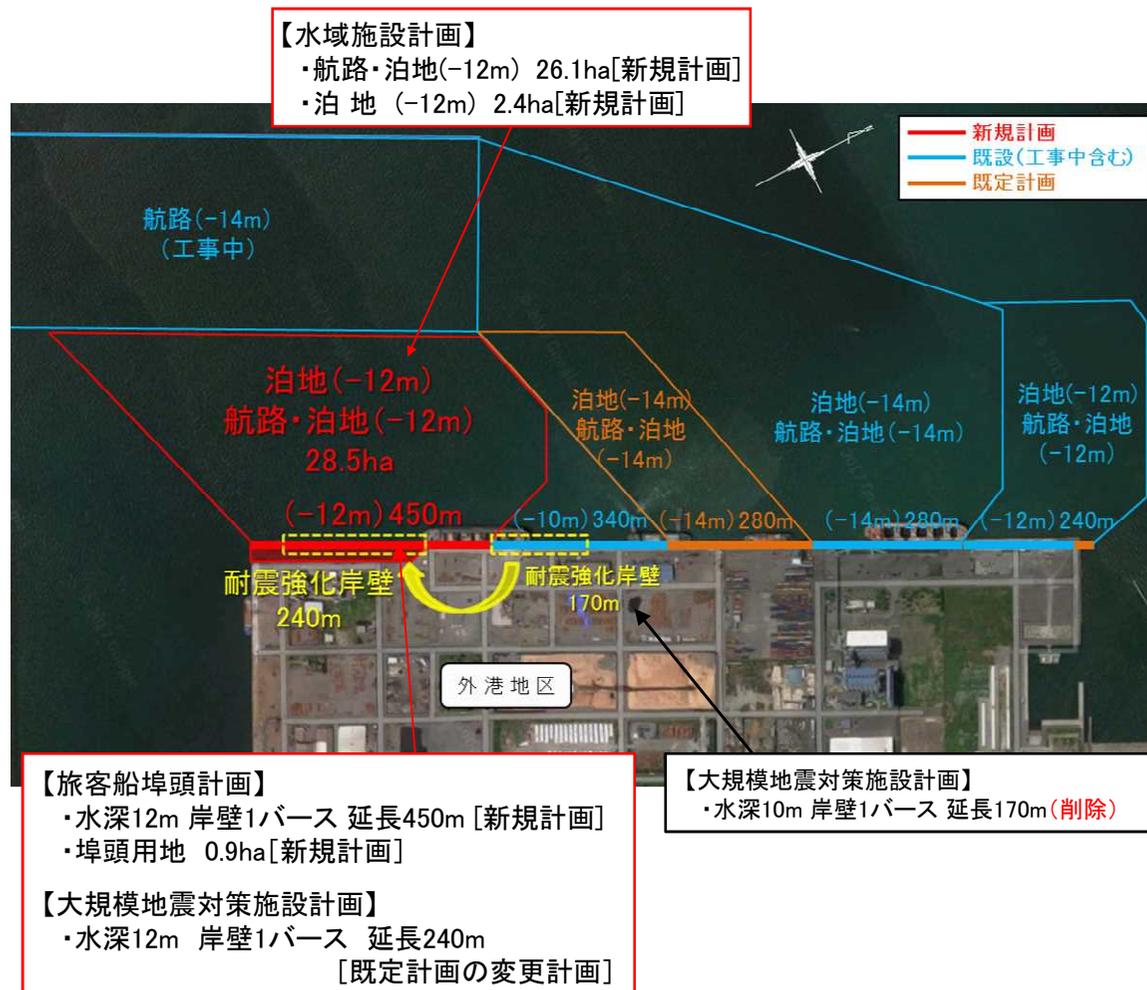
- 新たにクルーズ船専用の埠頭を計画するとともに、水域施設を計画する。
- 大規模災害時の防災拠点機能の早期確保のため、大規模地震対策施設の計画を、既設の岸壁からクルーズ船専用岸壁に変更する。
- クルーズ船専用岸壁の延長・水深は、世界最大船長・最大喫水のクルーズ船に対応するものとし、そのうち耐震性を強化する延長は、熊本地震の支援に使用された船舶に対応するものとする。

寄港対象とするクルーズ船の船型

【延長】	【水深】
Oasis of the Seas (世界最大船長のクルーズ船)	Queen Mary 2 (世界最大喫水のクルーズ船)
	
全長: 361m 型幅: 47m 満載喫水: 9.3m 総トン数: 225,282トン 旅客定員: 5,400名 国内寄港: なし アジア寄港: なし 初就航: 2009年 <small>出典: ロイヤルカリビアンインターナショナルHP</small>	全長: 345m 型幅: 41m 満載喫水: 10.3m 総トン数: 148,528トン 旅客定員: 2,592名 国内寄港: 横浜港、大阪港、長崎港 アジア寄港: 上海港 初就航: 2004年 <small>出典: 株式会社カーニバル・ジャパンHP</small>
岸壁仕様: 延長 450m	岸壁仕様: 水深 12m

緊急物資輸送船の主要船型

はくおう (海上自衛隊(チャーター) 貨物船)	全長: 199.5m 船幅: 25.0m 喫水: 7.2m 基準排水量: 13,950トン 乗員: 約380名 熊本地震対応: 物資輸送・宿泊 <small>出典: 防衛省HP</small>
	耐震強化岸壁仕様: 延長 240m



確認事項	「港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針」との適合
魅力ある交流空間の形成	<p>I 今後の港湾の進むべき方向</p> <p>4 活力のある美しい港湾空間の創造と適正な管理</p> <p>③観光や海洋性レクリエーションを核とした交流空間の形成</p> <p>観光による地域の活性化や人々の交流を支えるフェリー、旅客船、クルーズ船等の多様な要請に対応した、快適で利便性の高い交流空間を形成する。このため、地域の特性に配慮した旅客ターミナル施設や交流施設を整備する。また、まちづくりと一体となって、水際線を有する魅力ある空間を形成する。さらに、運河等を活用して水上ネットワークを活性化するとともに、地域の観光資源等を活用した水辺の賑わい空間を創出する。</p> <p>また、観光立国の推進、中国等からの訪日旅行者の増加に向けて、外国クルーズ船の日本寄港を促進するため、ポートセールス活動や旅客の利便性確保などに関係機関と連携して取り組む。（後略）</p> <p>V 港湾相互間の連携の確保</p> <p>2 各地域における港湾相互間の連携</p> <p>⑨九州地域</p> <p>（前略）また、環黄海圏の観光交流を一層促進するため、東アジア地域とのクルーズ船のネットワークの充実に向け、九州地域における各港湾が連携して取り組む。（後略）</p>
臨海部における防災拠点づくり	<p>II 港湾機能の拠点的な配置と能力の強化</p> <p>7 大規模地震対策施設</p> <p>大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資、避難者等を輸送するための機能を確保するべく、東海地震、東南海・南海地震等の大規模地震災害の切迫性、地理的条件、港湾の利用状況、緊急輸送道路網等背後地へのアクセスの状況等を考慮して、大規模地震対策施設を適切に配置する。また、大規模地震対策施設は、耐震強化岸壁と、緊急物資の保管や被災者の避難等に資する広場、市街地と港湾を連絡する道路等を一体的に備える。</p>

計画変更内容(外港地区)

- 国際クルーズ拠点形成に向け、世界最大級の大型クルーズ船(22万トン級)等の寄港に対応するため、水深12m、延長450mの岸壁及び岸壁背後に埠頭用地0.9haを、外港地区に新規に計画する。
- 旅客船埠頭計画に付随して、水深12m及び水深9mの水域施設を新たに計画する。
- 大規模災害時の防災拠点機能の早期確保のため、大規模地震対策施設の計画を変更する

